みんなのとしょかん

市民図書館
TEL（921）4646
FAX（921）4896
http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/

あたらしくはいった本（令和4年11月貸出開始資料から）

●小説　鎌倉残影（朝井まかて／著ほか）　絶筆（石原慎太郎／著）　特殊清掃人（中山七里／著）　栞と嘘の季節（米澤穂信／著）　光のとこにいてね（一穂ミチ／著）　闇の聖域（佐々木譲／著）　憐憫（島本理生／著）　十三夜の焔（月村了衛／著）　ゆれる階（村松友視／著）　金環日蝕（阿部暁子／著）　清浄島（河崎秋子／著）　プリテンド・ファーザー（白岩玄／著）　パラディーソ（ホセ・レサマ＝リマ／著）　野原（ローベルト・ゼーターラー／著）

●随筆・詩などの文学　教養としての日本古典文学史（村尾誠一／著）　とりあえずお湯わかせ（柚木麻子／著）　無人島のふたり（山本文緒／著）　オールアラウンドユー（木下龍也／著）

●その他の本　これ、台所でつくれます。（農山漁村文化協会／編）　脂肪を落としたければ、食べる時間を変えなさい（柴田重信／著）　迷える東欧（三木幸治／著）　CONTACT　ART（原田マハ／著）　天路の旅人（沢木耕太郎／著）　東京国立博物館（東京国立博物館／編）

『鎌倉残影』
朝井まかて著 ほか
KADOKAWA

『絶筆』
石原慎太郎
文藝春秋

『特殊清掃人』
中山七里
朝日新聞出版

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館の際はマスク着用などの協力をお願いします。

としょかんカレンダー

令和5年1

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

◯印の日は、お休みです。
開館時間　午前10時から午後6時まで
金曜・土曜（祝日除く・太字の日）は午後7時まで

太宰府の文華
～公文書館だより⑮～

太宰府のラムネ

明治期の地方産業の動向を知ることができる資料の一つに、郡是・町是・村是があります。郡や町、村単位の詳細な産業統計と将来目標などを掲げたもので、殖産興業の「羅針盤」として作成されました。筑紫郡では明治35（1902）年11月に『筑紫郡是』が作られ、郡内各町村でも同じ頃に町是・村是が出されます。太宰府地域では『太宰府町是』『水城村是』が作られますが、つぶさに項目を追うと興味深いことが分かります。

『町是』『村是』を繰ると消費部門に「ラムネ」の項目があり、太宰府町では「年1人につき3本」、水城村では「1人1本」と記載されています。当時太宰府町では平均してラムネが1年間に1人あたり3本、水城村では1本が飲まれた、という意味です。単価は太宰府町で2銭、水城村では2銭5厘。消費本数と価格に差があります。

次に『太宰府町是』の生産部門を見ると、「ラムネ1戸7万本」とありました。太宰府町にはラムネ工場が1軒あって、年間7万本を製造した、ということです。太宰府町の人口は当時4256人、水城村は2600人、2町村合わせたラムネ消費数は1万5千本程度。では残りの5万5千本の行方は？

さらに『筑紫郡是』を見ると、当時郡内にラムネ工場は1軒のみで、郡内では7万6845本のラムネ消費があったことが判明します。つまり、太宰府町のラムネ工場は郡で唯一のもので、そこで作られたラムネはほぼ郡内で消費されていた、と推測されます。また『郡是』には「ラムネ触売」という行商1軒の記載があるので、遠隔地でラムネはこの触売により販売され、地域による価格差はそれで生じた、と考えられます（例えば大野村では1本3銭）。

太宰府ではかつて五条にラムネ屋があったことが知られていますが、『町是』などによりその規模が少し具体的に見えてきたのではないでしょうか。市ホームページでは、発掘により見つかった太宰府のラムネ瓶を紹介しています（文化財調査情報・ページID3545）。また、『太宰府町是』は公文書館で閲覧することができます。

【バックナンバーはこちら】
ページID7241

太宰府市公文書館　藤田　理子